

熱帯の森林害虫（23）

野 淵 輝

鱗翅目 14

ヤガ科 Noctuidae（続き）

Euxoa radians Guenée はオーストラリアに広く分布し、被害の最も激しい夜盗虫であり大木の葉も摂食することがある。年数世代を繰り返す。卵は塊状でどこにでも産みつけられる。幼虫は夜間活動する。蛹化は土中の土莢中である。ニューサウスウェ尔斯では苗畑に普通でラジアータマツ、*Pseudotsuga menziesii*、その他各種の苗木を加害する。クイーンズランドでは *Araucaria* spp. と *Pinus* spp. が被害を受けやすい。*Fodina stola* Guenée はインドとパキスタンに分布する。成虫は開張 35~45 mm。前翅は光沢ある赤褐色、後翅はオレンジ色と黒色である。幼虫は成熟すると体長 40 mm に達し、ビロード状の黒色で黄色の横帯があり、頭部と腹部末端節は黄褐色。*Anogeissus latifolia* や *Cassia fistula* などの双子葉樹木の葉を食う多食性の毛虫で、土中で蛹化する。

Giaura sceptica Swinhoe はインドとパキスタンに生息し、幼虫は淡緑色で体長は約 15 mm になる。双子葉樹木の葉と花を摂食する多食性の害虫で、パキスタンでは時に *Butea monosperma* の葉を激しく加害することがある。絹糸の巣の下で葉を摂食し、葉上あるいは土中で繭を作り蛹化する。*Grammodes geometrica* Fabricius はヨーロッパ、アフリカ、南アジア、オーストラリアに分布し、幼虫はシャクトリムシ様、各種の双子葉樹木の葉を加害する。パキスタンでは *Zizyphus mauritiana* が加害樹として記録されている。*Grammodes stolida* Fabricius はインドとパキスタンに分布し、幼虫はシャクトリムシ様で、双子葉樹木の葉を摂食する多食性の害虫である。パキスタンで *Zizyphus mauritiana*

が加害樹として記録されている。卵は加害樹の新梢に 1 個ずつ産みつけられ、2~4 日で孵化する。幼虫は 15~22 日間裸で葉を摂食する。蛹化は葉上の繭内で、またはまれに土中で行い、蛹期間は普通 10~12 日で、休眠する時には 130 日である。

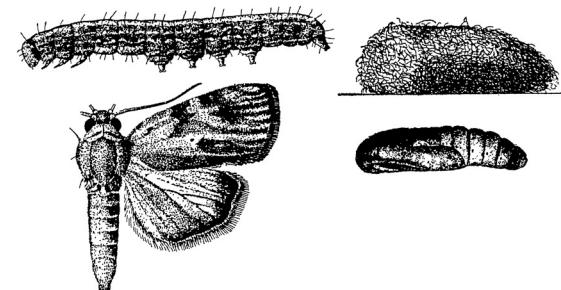
Heliothis armigera

図 1 *Giaura sceptica* 左上：老熟幼虫；左下：成虫；
右上：繭；右下：蛹 (BEESON より)

NOBUCHI, Akira : Insect Enemies in the Tropical Forests (23) Lepidoptera 14
林業科学技術振興所筑波支所

Hübner はヨーロッパ、アフリカ、南アジア、オーストラリアに分布する。成虫は開張約4 cm、前翅は暗黄色ないし褐色で暗色の斑紋をそなえ、後翅は淡色に縁取られる。幼虫は柑橘、タバコ、その他作物の重要な害虫として知られている。インドでは *Albizia procera*, *Dalbergia sissoo*, *Platanus orientalis*, *Populus euphratica*, *Salix tetrasperma*, *Schleicheria oleosa* を、タスマニアでは *Eucalyptus torelliana* を、ニュージーランドではラジアータマツ、*Larix decidua*、カラマツ、*Pseudotsuga menziesii* を、ザンビアではケシアマツを加害した記録がある。

卵は葉の上面に1個ずつ産みつけられる。幼虫は葉と他の柔らかい部分を食い、蕾に潜り、果実に穴をあける。共食いをすることがある。蛹化は通常土中の土壌内で行う。年2世代以上。幼虫期は2~5週間である。ニュージーランドでは苗畑や若齢造林地に普通に見られる。

Hypena iconicalis Walker は東洋区に分布し、マメ科植物の葉を食うが、インドでは *Anogeissus latifolia*, *Butea monosperma*, *Dalbergia sissoo* にもつく。*Hypocala rostrata* Fabricius はインドとパキスタンに分布し、成虫は青紫色の入った灰色で、開張は3~5 cm。前翅には暗色斑紋があり、後翅はオレンジ色で前縁は暗褐色。幼虫は *Diospyros* 属の葉を食うが、他の属や科の植物にもつく。*Odontodes aleuca* Guenée はインドとパキスタンで *Shorea robusta* の食葉性害虫とされている。*Paectes subapicalis* Walker はインドとパキスタンに分布し、成虫の開張は約18 mm。前翅は青紫がかった褐色、後翅は淡色で暗色に縁取られる。*Shorea robusta* のやや重要な食葉性害虫で、チークにもつく。年数世代を繰り返す。幼虫は25 mmになり、ピンク色を帯びた麦色。普通若い葉を摂食する。繭は虫糞で被われる。しばしば大発生し、激しい失葉被害をあたえる。

Pandesma quenavadi Guenée はインドで *Acacia catechu*, *Albizia lebbeck*, *Xylia xylocarpa* の食葉虫として知られている。*Plecoptera reflexa* Guenée はインドとパキスタンに分布し、成虫は灰色。開張は30~35 mm。幼虫は体長25 mmに達し、緑色で白の背線を持ったシャクトリムシ様で、成熟するとピンク色になる。*Dalbergia sissoo* の食葉性害虫として知られているが、*D. latifolia* と *Pterocarpus marsupium* にもつく。成虫は薄暮と夜間に飛翔する。卵は普通1枚の葉に1粒ずつ産む。孵化幼虫は若い葉の表皮を食うが、後に各組織をむさぼり食うようになる。とくに葉柄や緑色の新梢をよく食う。葉を食いつくすと新しい餌を求めて絹糸で垂下して移動する。蛹化は落葉層や土中の繭内です。1世代は17~30日で、年11世代ぐらいを繰り返す。蛹で越冬する。食葉被害は4月から8月に激しい。この種類はパンジャブと西パキスタンの灌漑造林地の重要な害



図2 *Heliothis armigera* 幼虫
(KALSHOVEN より)

◎熱帯林業講座◎

虫で、若木が被害を受けると枯損することがある。

Plusia chalcites Esper は東半球の温帯と熱帯に広く分布する。幼虫は緑色のシャクトリムシ様で生長すると体長約 25 mm になる。豆、カカオ、トウモロコシ、トマト、イモ、タバコなどの草本作物と灌木の食葉性害虫であるが、インドでは *Kydia calycina* を、ウガンダでは *Morus* 属の害虫にされている。成虫は薄暮時に行動する。幼虫はしばしば主脈を残し、全葉をむさぼり食う。寄生樹上で繭を作り蛹化する。世代長は気象条件によって異なるが、早い個体では約 9 週間である。*P. limbirena* Guenée はヨーロッパとアフリカに分布する。幼虫はシャクトリムシ様で、本質的には下層植生の葉を食うが、ウガンダの苗畠で *Eucalyptus saligna* とラジアータマツのマイナ-害虫にされている。卵は葉の下面に 1 個ずつ産みつけられ、葉上で繭を作り蛹化する。

P. orichalcea Fabricius はヨーロッパ、アフリカ、アジアに広く分布する。幼虫は緑色で細い白色線をそなえる。生長すると 35~40 mm に達する。多食性でアマ、タバコ、バニラなどの食葉性害虫である。林木では *Butea monosperma*, *Cupressus lusitanica*, *Dalbergia sissoo*, *Entandrophragma angolense*, *Syzygium cuminii* が加害樹として記録されている。若木の葉を食うが、通常寄生虫や鳥などの天敵により防除され大発生には至らない。ケニアでは世代長は 12 週間である。

Prodenia littoralis Boisduval はエチオピア区、マダガスカル区に分布し、ヨーロッパ南部にも生息する。成虫は灰色と白色。開張約 35 mm。幼虫はシャクトリムシ様、多食性。エジプトでは綿の重要な害虫とされている。苗畠の夜盗虫で *Cupressus lusitanica*, *Eucalyptus saligna*, *Maesopsis eminii*, *Pinus insularis*, *P. halepensis*, ユーカリなどの苗木を加害する。熱帯では 1 年中加害し、エジプトでは年 7 世代を繰り返す。*P. litura* Fabricius はオーストラリア、東洋区、大洋州、アフリカ、ヨーロッパに広く分布する。成虫は灰色と白色、開張約 35 mm。幼虫は生長すると体長が約 45 mm になり、褐色を帶びた緑色で側方に淡色、背面に褐色の横帯をそなえ、外形はシャクトリムシ様。多食性の食葉虫である。タバコと各種の野菜の害虫として知られ、林木では *Artocarpus integrifolia*, *Casuarina equisetifolia*, ゴムノキ、マンゴ、*Morus alba*, ポプラ、チーク、*Terminalia tomentosa*, *Thuja orientalis*, *Tristania conferta* の葉を加害する。食害は年間を通じて継続し、世代は重複する。1 世代長は 4~6 週間で、南インドでは年約 5 世代である。マラヤでは卵、幼虫、蛹の期間はそれぞれ約 4 日、3 週間、7 日である。1 雌は寄生の葉上に 500 粒以上の卵塊を産み、表面を体毛で覆う。若幼虫は初め集合して摂食するが後に分散する。彼らはほとんどすべての組織をむさぼり食い、主脈や葉柄に潜る。食べ物が少なくなると共食いする。老熟幼虫は絹糸で垂れ下がり土中で営繭し蛹化する。

Pseudelydnia rufoflava Walker はインドに分布し、*Terminalia* spp. の葉を食害する。繭は密に編まれ、一端が細まる。*Rhesala imparata* Walker はインドに生息し、*Albizia* 属の葉を食べる。アンダマン諸島の造林地に時に被害が発生する。*Risoba obstructa* Moore はインドに分布し、*Lagerstroemia speciosa*, *Terminalia paniculata*, *T.*

tomentosa, *Xylia xylocarpa* の食葉虫である。繭は細長く防錘形で小枝に沿って作られる。*Rusicada fulvida* Guenée は東洋区に広く分布し, *Kydia calycina* を含むアオイ科の葉を食う。インドでは 1 世代が 3~5 週間である。

Selepa celtis Moore はインド, パキスタンから東洋区を通ってオーストラリアに分布する。成虫は灰色, 開張約 20 mm。幼虫は生長すると約 16 mm になり, 黄色で黒斑と疎な長い淡色の毛をそなえる。双子葉植物の葉を加害し, 多食性。林木では *Albizia* spp., *Bischofia javanica*, *Duabanga sonneratiooides*, *Ficus glomerata*, メリナ, *Lagerstroemia speciosa*, *Lannea coromandelica*, マンゴ, *Schleichera trijuga*, *Shorea robusta*, *Syzygium cuminii*, *Terminalia bellerica*, *T. catappa*, *T. chebula* を加害する。普通葉の主脈を残しほとんどの組織をむさぼり食う。虫糞で覆われた繭内で蛹化する。北・中央インドでは年 5~6 世代を繰り返し, 蛹で越冬する。*Westermannia coelisigna* Hampson はインドで *Terminalia bellerica* を加害し, 土中で薄い繭を作り蛹化する。*Xanthodes transversa* Guenée はインドから東洋区, オーストラリアに広く分布する。アオイ科の葉を加害し, インドでは *Kydia calycina* の害虫である。幼虫は体長 38 mm に達し, 若齢期には緑色であるが, 後に暗紫色になる。土中で繭を作り蛹化する。

《お知らせ》

公益信託四方記念地球環境保全研究助成基金の助成対象者が、昨年度に引き続き本年度（平成 7 年度）も募集されます。

大学などの研究機関の研究者または研究グループ（大学院生や研究生を含む）で、1) 熱帯雨林の減少, 砂漠化の進行等の地球規模の自然環境問題, 2) 絶滅の恐れのある生物などの生態及びその保護・回復, 3) 人間の生活と両立する自然環境, 野生生物などの管理手法に関する調査・研究に対し 1, 2 件程度, 総額 75 万円が助成される予定です。

応募締切は平成 7 年 5 月 31 日。募集要項, 申請書等は下記宛にかならずハガキでご請求ください。

【申請書等の請求先－ハガキでご請求ください】

〒113 東京都文京区湯島 2-29-3

財団法人自然環境研究センター内

公益信託四方記念地球環境保全研究助成基金 事務局